2025 JANS 若手の会　　第 3 回 九州・沖縄エリア検討会

"これ研究になる？"と"現場の声が聞きたい"をつなぐ：現場看護職×大学研究者のペアリングワーク

2026 年 2 月 28 日（土）、第 3 回九州・沖縄エリア検討会を現地＆オンラインのハイブリッド方式にて開催しました。今回の検討会は、現場看護職×大学研究者のペアリングワークをテーマに、研究シーズ（現場の声）からエビデンス創出・社会実装につながる実践的な手がかりを得ること、またエリア全体の研究推進力と研究意欲の向上を図ることを目的として企画しました。九州大学での開催となった今回は、参加者 32 名（現地参加 16 名、オンライン 16 名）を迎え、エリア内の大学教員、臨床看護師・助産師、大学院生と様々な職種の方々にご参加いただきました。また、オンラインでは九州・沖縄エリア以外からの参加者もいらっしゃいました。

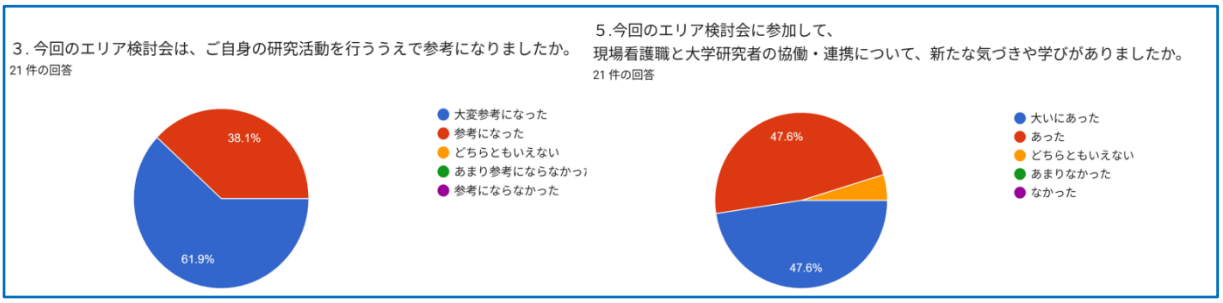
第１部　前半は、九州大学看護学分野の田中さとみ先生より看護学科の概要および「九州大学看護共創・実装研究拠点」の研究活動についてご紹介いただきました。続いて、甲斐梓先生より病院・大学双方の視点から実装研究の実際をご報告いただき、他大学エリアコーディネーターの先生方からも各施設での研究連携の実践について共有いただきました。

第２部　グループワークでは、研究シーズの共有・研究可能性の検討・共創に向けた課題と工夫・今後の展望の 4 つの柱に沿って議論を行いました。大学側からは、附属病院の有無による環境格差、多施設連携の接点のつくりにくさ、臨床看護師の研究モチベーションを高めることの難しさが挙げられました。現場側からは、研究時間の確保困難、資金・支援体制の不足、「研究」と「業務改善」の線引きが難しいといった課題が共有されました。

今後のアクションとして、大学と臨床をつなぐ HUB となる人・システムの整備、実習を活かした現場課題の可視化とテーマ化の仕組みづくり、多施設間の共同研究の場の創出などが提案されました。また、学部教育からの研究の意味づけ、小さな成功体験の積み重ね、師長・上司を巻き込んだ研究時間の制度的確保（「研究 Day」の設定など）、研究テーマに至る経緯の丁寧に言語化についても意見が共有されました。

おわりに　今回の検討会を通じて、現場の声を研究につなぐための具体的な糸口と、エリアを越えたつながりの大切さを改めて確認することができました。ご参加・ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

参加者へのアンケート結果（一部抜粋）



今後の課題や研究を進めていく上での工夫点を知ることができた、自分の環境でどのような行動をとっていけば良いかプランが少し浮かんだ、課題を共有できた、つながりを大切にして、シーズを拾っていきたいと感じた、他多くのご意見・ご感想をいただきました！

検討会の開催に際し、全面的なご支援・ご協力を賜りました九州大学大学院医学研究院保健学部門看護学分野の先生方に、心より感謝申し上げます。

九州・沖縄エリアコーディネーター：田中さとみ，山口史剛，平良由香利，山田春奈，李慧瑛